吉子川

令和6年10月11日（金）
学 校 だ よ り NO. 40
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸美智子

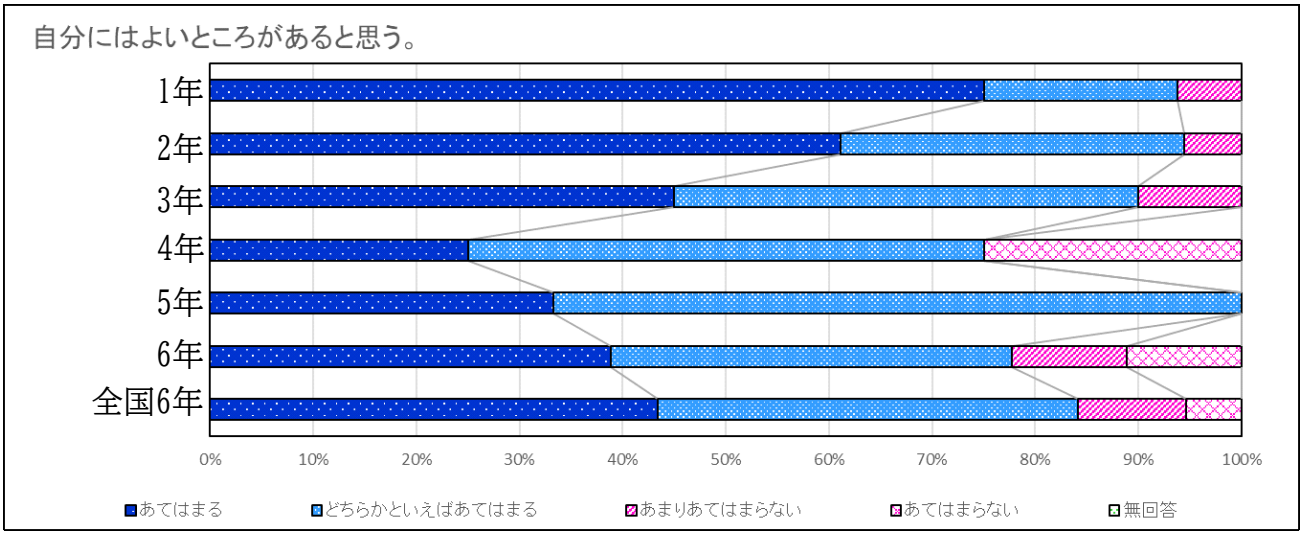
【めざす児童像】
〇あかるく たくましい子ども （体）
〇やさしく おもいやりのある子ども（徳）
〇めあてをもって がんばる子ども （知）

【よしコッピ】
吉子川小学校のあやめの花に住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子　学びの十か条（１０月）
きまり、ルールは守ってあたり前
落ち着いた環境で高まる集中力

◇　子どもの自己肯定感を高めたい！　◇

9月、全校児童を対象に意識調査を行いました。「自分にはよいところがありますか」という質問です。「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の４つから、自分の考えに合うものを選んだ結果が下のグラフです。上から本校の1年生からの各学年です。一番下が全国の6年生のデータです。



今年度、学校としては、一人一人の子どもの自己肯定感を高めることを大きな目標に掲げています。「あてはまる」と、自信をもって積極的にこたえる子どもを増やしたいのです。なぜなら、自己肯定感は、人の幸福感に大きな影響を与えるだけでなく、ストレス耐性の向上、挑戦への意欲の喚起、そして精神的な安定にもつながるからです。自己肯定感が高まると、人は困難に直面してもポジティブな態度を保ちやすくなり、より幸福を感じるようになるのです。

「自分自身に満足している」と言い切っている子どもの割合を他国と比較したデータを紹介します。驚愕の数値です。アメリカが57.9%、韓国が36.3%、日本は10.4%です。 日本人は、「自分のよいところを言うなんて恥ずかしい」とか「人に言えるほどのことではない」などと、控えめで謙虚な国民性であるものの、やっぱり心配な数値です。苦手な面ばかりに目を向け、人と比べて「ないもの探し」ばかりしていては自己肯定感は高まらず、幸せを感じにくくなってしまいます。特に、これから夢と希望をもって未来を切り拓いていく子どもの自己肯定感が低いのは、大問題だと思います。

自己肯定感を高めるためのポイントを紹介します。まずは、周りの者が上手に褒めること！ ポイントは次のとおりです。今日から始めてみましょう。

①結果ではなく、プロセスをほめる
× テスト100点ですごいね。→100点でないとダメなことになる。
〇毎日コツコツ勉強したものね。苦手なことでもあきらめないでやってよかったね。

②行動をほめる
× 今日はお手伝いをしてくれたね。いつもやってくれればいいのに。→皮肉や批判はうれしくない。
〇自分から手伝うって言ってくれてうれしかったよ。ありがとう。

③ほめ方はその子に合わせる
× 照れ屋さんなのに、みんなの前でおおげさにほめる。→居心地が一気に悪くなる。
〇視線を送る。指で合図する。個別にほめる。